

# 医療改革

——医療サービスと患者中心の医療の実践——

(社)日本透析医会

常任理事 小野山 攻

4月1日から実施された診療報酬改定は、マイナス2.7%どころではなく、医療現場の実態を無視したものとなっています。

会員諸氏も「医学的根拠と無縁の改定内容への怒り」をお持ちだと思います。今回の診療報酬改定では、財政削減のための辻褄合わせとされ、第一線医療の存続が大きく脅かされる事態を生じています。とりわけ私たち透析領域への影響は著しく、医療経営の破綻そして医療への重大な支障が避けられません。日医も「問題の多いところは救済措置を考慮」と訴えているので、医会としても緊急レセプト調査等、次回の改定に対しての準備が今から必要です。診療報酬改定への対応とともに、医療制度改革に対しても十分な対処が必要であることは言うまでもありません。

人工透析の包括化については、過剰投与や過剰診療になる可能性のある部分が少なく、透析のような定型化した治療では、これ以上包括化する必要性は低いと考えます。

①国民皆保険制度の堅持、②医療制度への市場原理導入の阻止、③プロフェッショナルフリーダムの確立、等が協議され、日本医師会でも今回の診療報酬改定についての影響度調査が行われていますが、その分析には医療機関側だけでなく国民の理解と共感を得るような視点が必要と訴え、医療の本質を守り抜いていかなければなりません。

「医療サービス」についてももう一度考え直す必要があります。患者は診断の的確さ、利便性、待ち時間の短縮化、スタッフの親切度、低価格化等を望んでおり、私達は医療機関の効率化と現場にもっと目をむける必要があります。一方患者は病気についての情報に乏しいので、私達も色々な手法で情報提供が必要であり、患者自身も知識を蓄える必要があります。私達は過去のしがらみから抜け出して、皮下脂肪を筋肉質に変えねばなりません。

サービス向上に絞り込んだ経営理念を持ち続ければ、両者の関係も協力と信頼のもとに改善されるでしょう。今求められているのは、こうした力強い変革の原動力をもとに、新しい医療システムを考える必要があります。

医療の質には技術や能力の質と人間関係の質があり、後者について患者が医療から得たいと望んでいる中心的なものは「患者中心の医療」です。2000年3月に福岡県医師会が出された診療情報共有福岡宣言は次のように述べています。

—患者さんの病気、死の恐怖の克服に役立てるために—

1. 我々は病気に伴う不安や死の恐怖を、先ず、共有します。
2. 共有できないときは何故かを考えます。
3. 患者さんに対する説明責任論理を結果責任論理に優先させます。
4. その為に診療情報を患者さんと医師とで共有します。
5. 我々は情報を共有することが常に実現できるように、診療に関わる不安要望・苦痛を、患者さんから受け入れます。
6. 診療総合相談窓口を設置します。

同宣言を普及・推進させるために福岡県医師会は次のような支援を行う。

1. 診療情報の共有が困難であったり、実現できなかった事例を関係者の論理まで掘り下げる事例検討会を持ちます。
2. その結果を当事者に報告します。
3. さらに、これら事例を類型化し、診療報酬共有宣言を推進するために公表します。このことにより、医師・患者とも、より賢くなることを期します。
4. 以上のことがより速く、円滑に推進できるように、ヘルスコミュニケーション技術の研究、開発、研修、人材の導入を行います。

その結果、平成12年度で479件の相談事例がありました。

上記を読むと、医の原点に戻って、医を提供する側と医を期待する側とで病気の概念、イメージ、感覚が一致しているかどうか、という根元的な問いにこだわらなければならない時代であると痛感させられます。その必要性は、医事紛争や訴訟の急速な増加や医学研究の急速な展開への危惧の表明にみてとれます。

「患者中心の医療」を色々な側面から考える必要があります。それらは、①患者の価値観、意向、ニーズの尊重、②ケアの連携と統合、③情報コミュニケーション、および患者教育、④身体の苦痛の解消、⑤心理的支援、不安の緩和、⑥家族と友人の関与、⑦ケアの継続性、です。

医療の分野で働く人たちは誰もが人々を助けたいという動機で職業を選んできた人たちであり、患者中心の医療のあらゆる側面に特にかかわりを持っているのが看護職の仕事です。つまり、医療施設と患者とをより人間的につなげる仕事をしているといえます。

医療サービスや医療施設を患者の視点で見直すことによって得るものがあると思われま。この数年、患者の満足度を測ることに対する関心が高まっていますが、これは患者から高い評価を得ることだという意識の高まりを物語っています。患者を個人として尊重することは、人間的な医療の基礎です。病気を引き起こしている人間的な背景を十分考慮する必要があります。患者を個人として尊重し、患者が持つ不安や心配をすくい上げ、解決に向かって取り組むことが求められています。

患者に「透析中に最も重要なことはなんですか」と尋ねた所、最も多かった答えは、「自分が有能な専門家にケアしてもらっていると感じられること」でした。そのように感じる事ができれば、患者は自らが置かれた状況のなかで、最大限安心することができると思われます。つまり、患者は、「能率」と「円滑に機能する組織」を重視し、このことがわれわれ医療機関にとって信頼や信用されることにつながっていくと信じます。